

まえがき

農林水産政策研究所は、平成13年度から3ヵ年間、「環境・資源制約下における世界食料需給の予測手法精緻化に関する研究」に取り組んできた。このため、当所では、主に諸外国の農業・農業政策を研究対象とする研究員で構成するプロジェクト研究チームを発足させ、研究を推進してきたところである。

本研究は、以下の二つの課題から構成される。

課題1は「環境・資源制約要因を考慮した世界食料需給モデルの開発」であり、環境・資源制約要因を反映したより精緻な世界食料需給予測モデルの開発に向けたモデル構造の理論的検討、データ加工・プログラミングを中心としたモデルの開発、開発されたモデルによる予測を行うものである。

課題2は、「世界の主要地域における環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する研究」であり、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因の態様は地域的に様々であることから、世界の主要地域（国）について、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する分析をカントリースタディーとして行うものである。

課題1については、世界の主要地域（国）の共通項としての環境・資源制約要因を農地および農業用水（灌漑地面積）に求め、計量モデルによる長期的な需給予測が試みられた。これに対して、課題2については、世界の主要地域（国）のいくつかについて、その地域（国）に固有の環境・資源制約要因を掘り下げて分析することに努めた。従って、前者の課題ではエティック（地域横断的）なアプローチを採用したのに対して、後者の課題ではイーミック（地域個性把握的）なアプローチを採用したのである。

本研究資料は、平成14～15年度にかけて取り組んだ課題2の成果の一部を取りまとめたものである。分析対象地域（国）は、東北アジアでは中国およびモンゴル、CIS諸国、東南・南アジアではベトナムおよびインド、そしてアフリカ、開発途上国、オーストラリア、ブラジルである。それぞれの対象地域（国）の分析課題や分析方法もさまざまであるが、これは、対象地域の食料・農業問題それ自身が複雑でありかつ多様性に富むことの反映である。

最後になったが、本研究資料を取りまとめるにあたり、宇佐美好文（大阪府立大学）ならびに野部公一（専修大学）の両先生には、それぞれインドならびにCIS諸国についての研究成果をご執筆いただくことができた。ここに特に記して感謝申し上げる次第である。

平成16年3月

農林水産省農林水産政策研究所
世界食料需給プロジェクト研究チーム
編集代表 水野正己
明石光一郎